

2010年3月期
第1四半期決算説明会

2009年7月31日
ヤマハ株式会社

- 1Q業績は、対前年同期減収減益。前回予想(4/30発表)に対しては減収営業増益。最終損益は29億円の赤字

対前年同期

- ・売上高は、19.3%(239億円)の減収。為替影響(▲80億円)除けば、対前年同期12.9%(159億円)の減収
- ・営業利益は、経費削減効果はあるものの、減収に加え、円高に伴う為替損(38億円)の発生、退職給付債務の利差損等で、54億円の減益

対前回予想

- ・売上高は、為替影響(+28億円)を除いた実質ベースで7.6%(79億円)の減収
- ・営業利益は、減収要因はあるものの、為替益(4億円)、経費削減等により、9億円改善し、2億円の黒字を計上

■在庫

- ・1Q末在庫は、対前年同期12億円の減少。新規連結会社要因、為替影響(104億円)を除けば、対前年同期64億円の実質増加。楽器在庫増が主因。前回予想に対しては実質17億円の減少

2010/3期 1Q業績概要



▶ 対前年同期減収減益、対前回予想では減収営業増益 (億円)

	09/3 (1Q) 実績	10/3 (1Q) 実績	前年同期比	前回予想 (09/4/30)	前回予想比
売上高	1,233	994	▲19.3%	1,045	▲4.9%
営業利益 (営業利益率)	56	2 (0.2%)	▲95.8%	▲7	—
経常利益	57	▲5	—	▲14	—
当期利益	11	▲29	—	▲23	—

為替レート

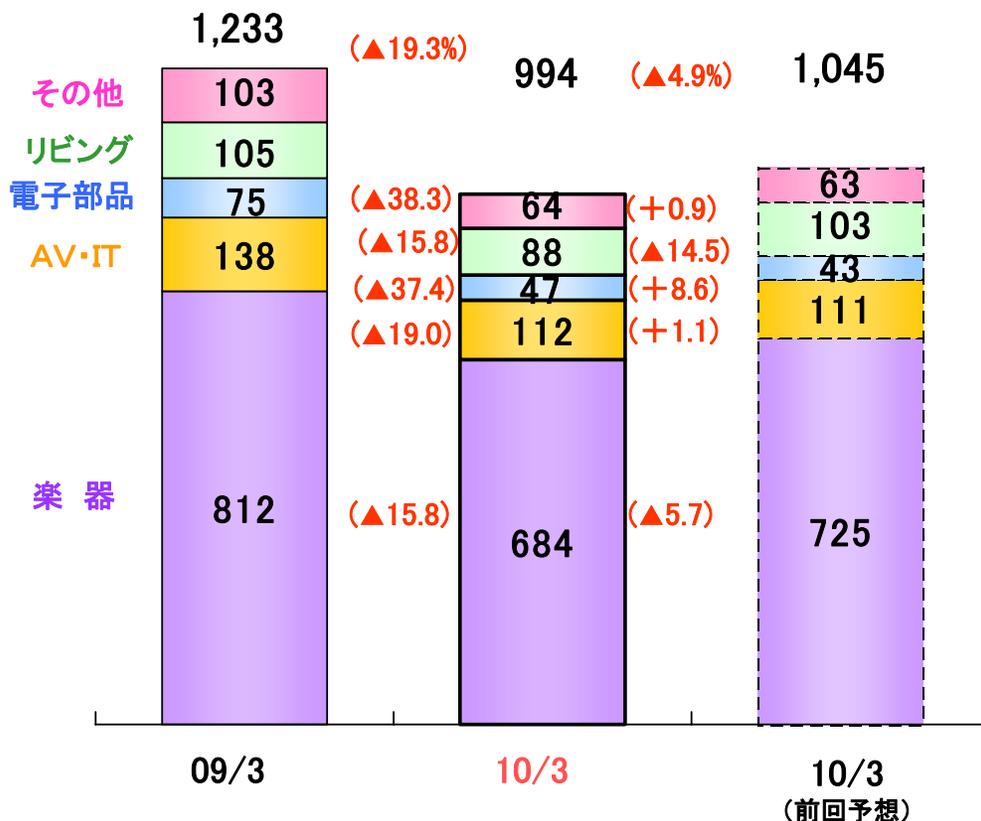
(円)

売上高	US\$	105	97	95
	EUR	163	133	120
利益	US\$	104	97	95
	EUR	155	124	120

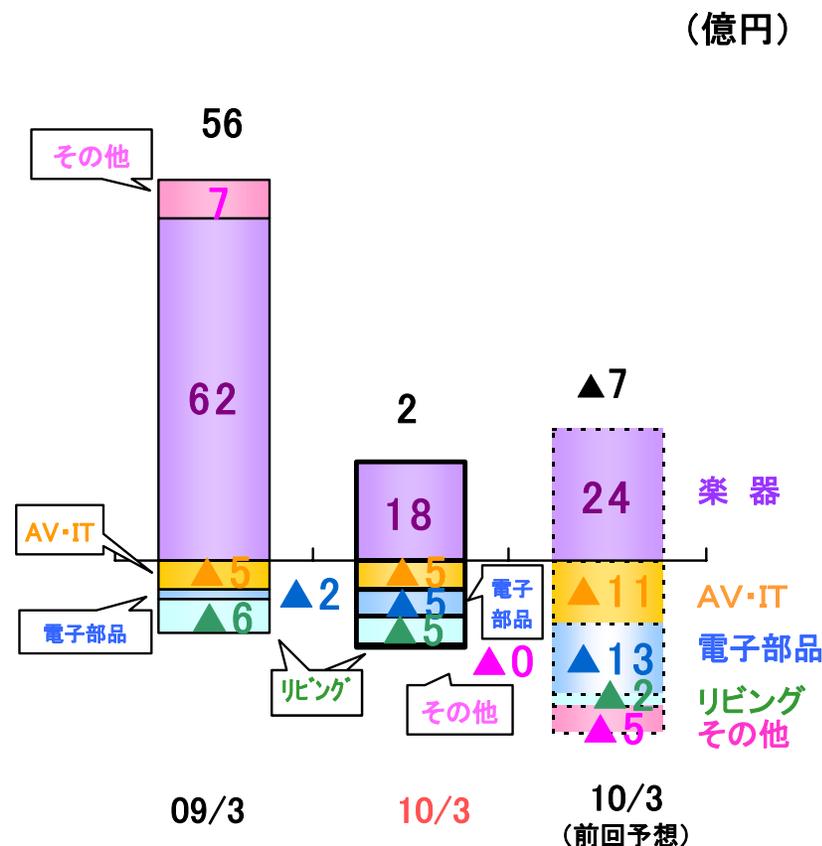
2010/3期 1Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲80億円
(楽器▲63億円、AV・IT▲16億円)
また、前回予想との比較では+28億円
(楽器+22億円、AV・IT+6億円)

前年同期との比較での為替影響は▲38億円
(楽器▲30億円、AV・IT▲8億円)
また、前回予想との比較では+4億円
(楽器+4億円)

2～4Qの事業環境

■世界的な景気低迷継続

- ・米国景気にやや下げ止まり感は見られるものの、欧州はまだら模様。日本は景気低迷。中国は消費回復基調。新興市場も回復の兆し
- ・法人向けビジネスは、反転の兆し
(自動車関連、携帯電話関連、アミューズメント関連事業等)

■円高継続定着

2～4Qの状況と施策

■楽器、AV機器を中心に、年末需要期に向けた営業活動注力

■収益改善施策の継続

- ・経費削減、コストダウンの継続
- ・設備投資、研究開発費用の見直し
- ・ヤマハ(株)国内生産拠点での全社休業による在庫低減
・・・9月～3月で7日間の休業(但し、ピアノは10日間、管楽器は11日間)
- ・効果的な新製品投入

通期の業績見込み

■景気先行き不透明のため、前回予想を見直さず、据え置き

2010/3期 通期業績予想



➤2～4QのUS\$、EUR為替レートは各々95円、120円を前提

(億円、%)

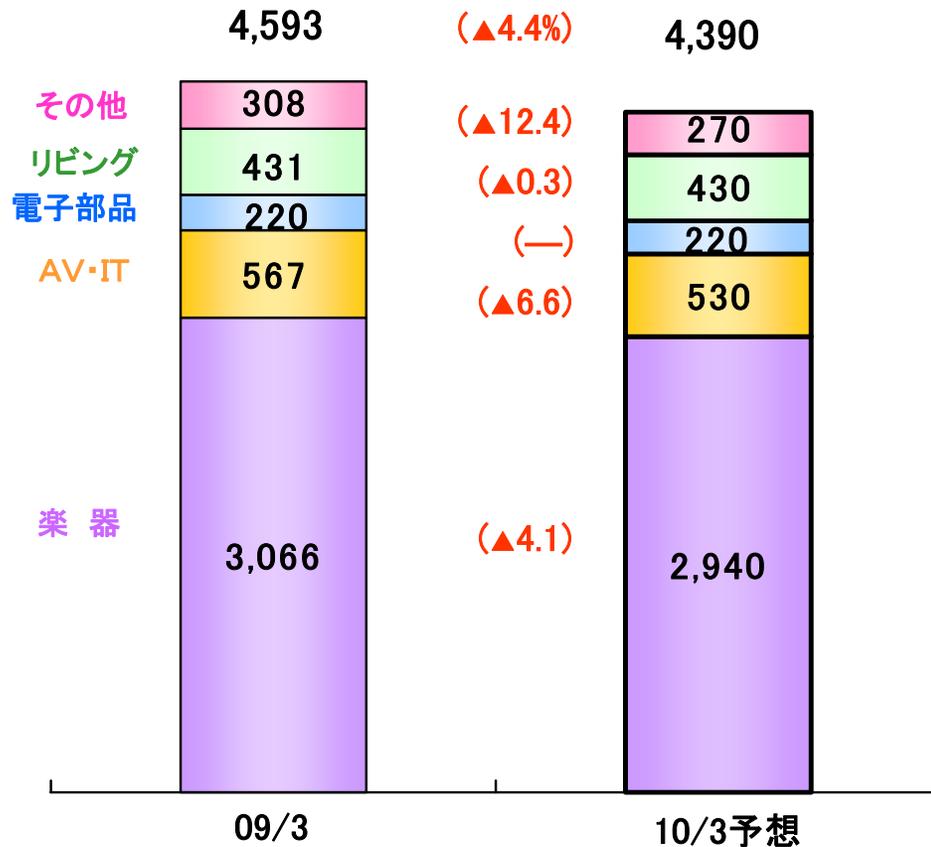
	09/3 (前期実績)	10/3 (予想)	増減額	前年同期比
売上高	4,593	4,390	▲203	▲4.4%
営業利益	138	60	▲78	▲56.7%
経常利益	120	30	▲90	▲75.0%
当期利益	▲206	0	+206	—

為替レート	(円)	(2～4Q)		
売上高	US\$	101	96	95
	EUR	144	123	120
利益	US\$	102	96	95
	EUR	153	121	120

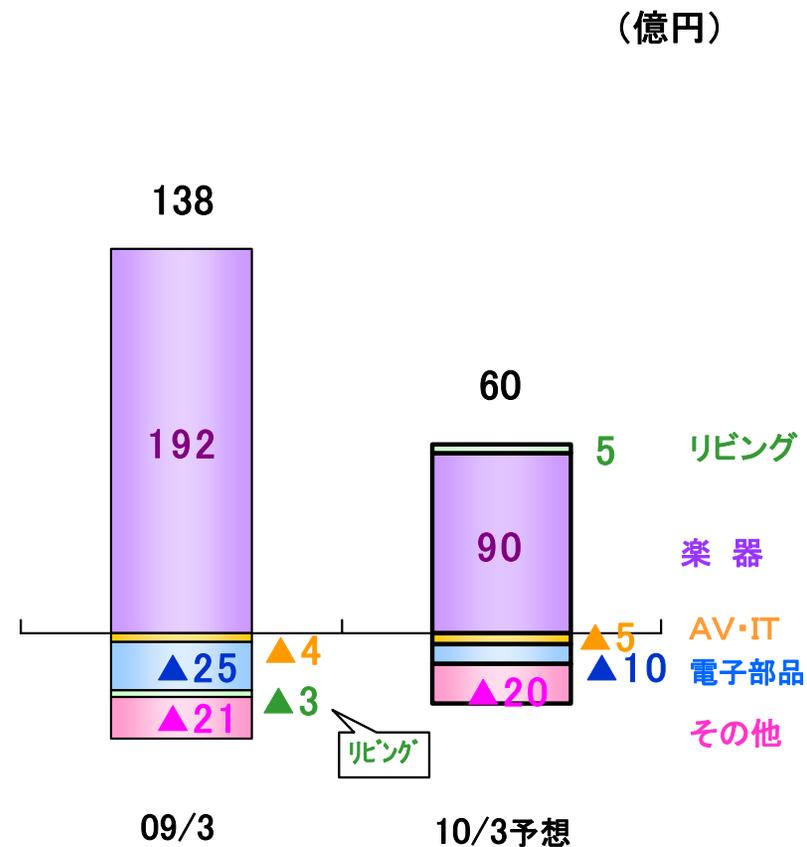
2010/3期 通期事業別業績予想



売上高



営業利益



()内は前期比
または
前回予想比

前期との比較での為替影響は▲255億円
(楽器▲200億円、AV・IT▲54億円、半導体▲1億円)

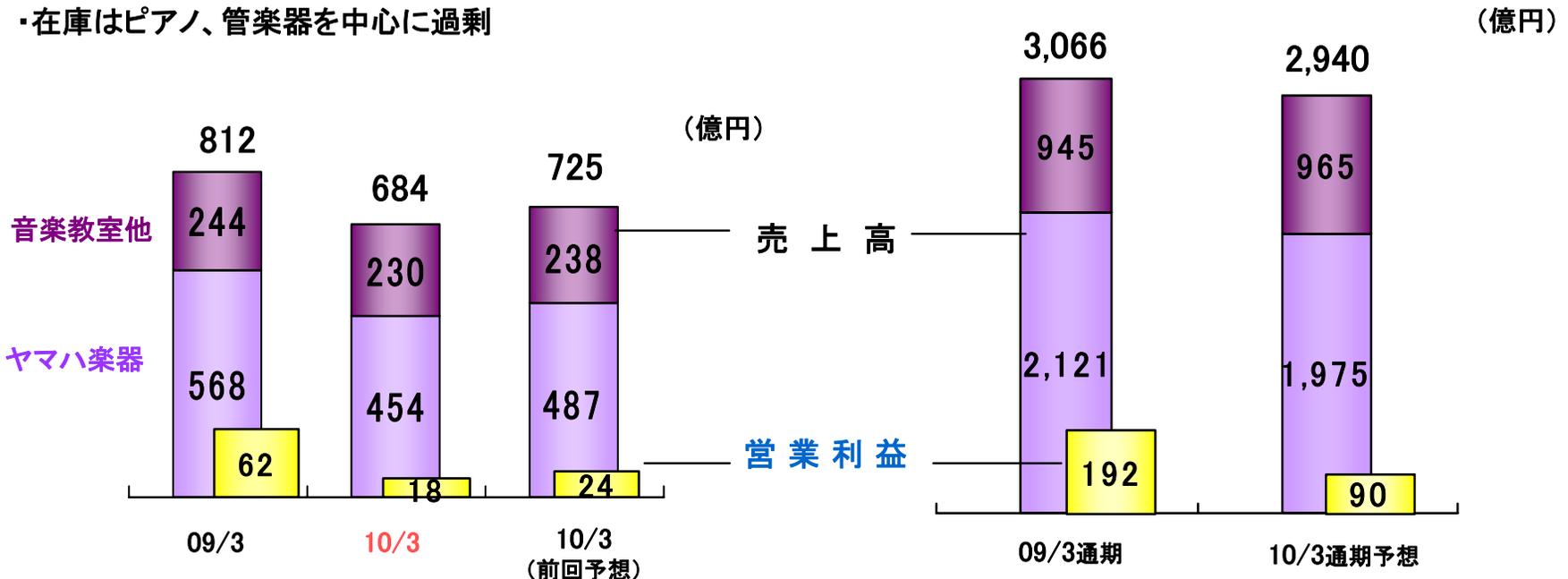
前期との比較での為替影響は▲199億円
(楽器▲159億円、AV・IT▲41億円、半導体+1億円)

1Qの状況

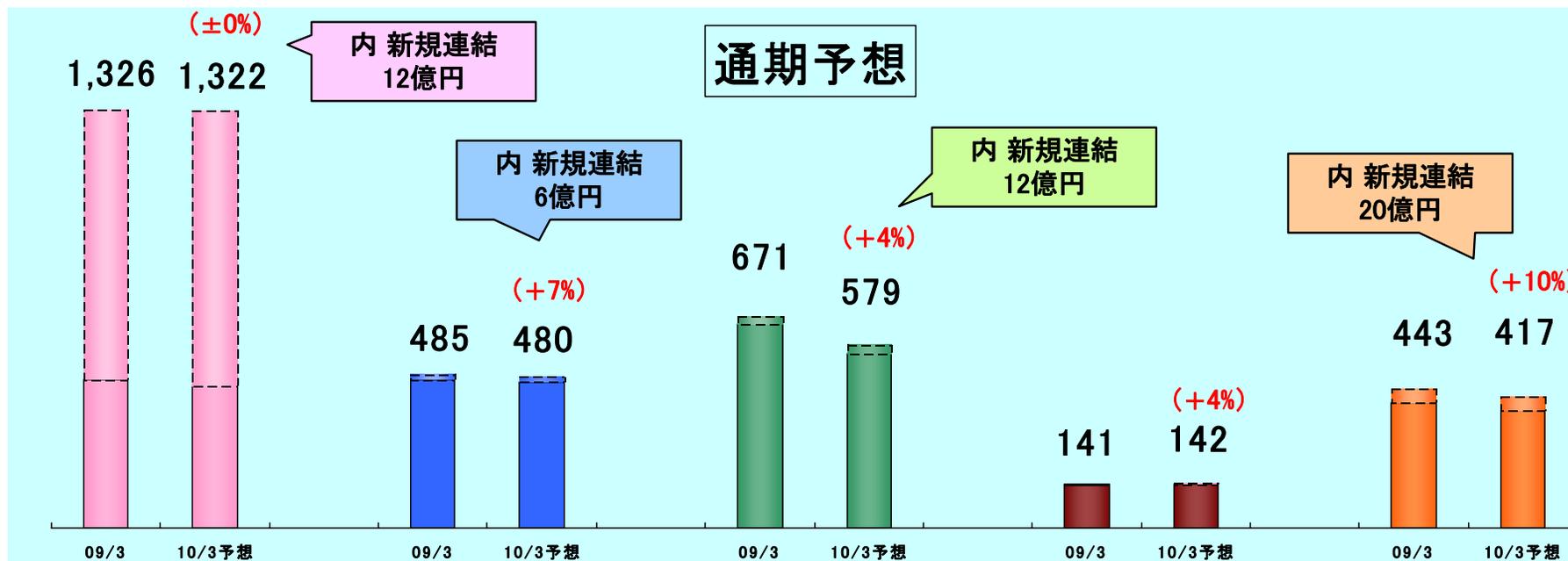
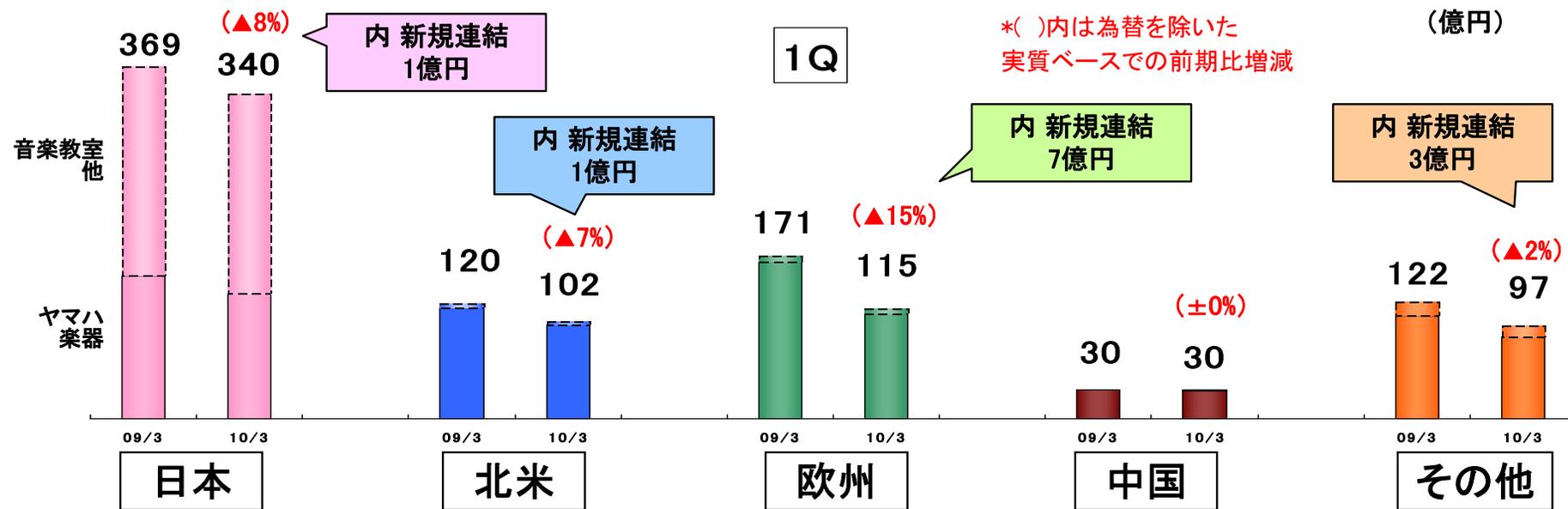
- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期8.0%（65億円）の減収。対前回予想でも実質8.7%（63億円）の減収
- ・中国はピアノを軸に堅調に推移。
北米は設備音響機器が低迷するものの、前4Qに比べ回復傾向。
欧州はピアノ、設備音響機器を中心に減速感強まる。
日本も全般的に低調
- ・営業利益は、減収に加え、為替損、退職給付債務の利差損の発生等で対前年同期減益。
前回予想との比較では、減収に伴い計画未達
- ・在庫はピアノ、管楽器を中心に過剰

通期予想と重点施策

- ・欧米年末需要期に合せた新製品の確実な市場投入
- ・成長市場（中国、中南米、中東、東欧等）での拡販とロシア、インド販売会社の軌道乗せ
- ・経費削減、在庫適正化



楽器事業(地域別の販売状況)



楽器事業(地域別の販売状況)



	楽器地域別状況
日本	景気先行き不透明感から消費は鈍く、ピアノ値上げによる駆け込み受注も期待値に届かず。電子ピアノ・管楽器を中心に不調が続く、全体では計画・前年とも大きく下回る。年末に向けて、新商品の投入と販促策の強化により底上げを目指す。
北米	顧客の低価格志向で安価な電子ピアノやポータブルキーボード、ギターの販売回復の傾向見られたが、ピアノ、管楽器などの苦戦が続く、楽器全体では前年割れ。また音響機器も投資案件が激減し、回復の兆しが見えていない。今後、鍵盤楽器の販路拡大と新商品投入で売り上げ確保を図る。
欧州	経済危機の影響で南欧・東欧で市場縮小。販売店の資金繰り悪化し、ピアノや音響機器の売り上げ低迷。年末に向けては、値上げ効果の一部還元やメリハリを付けた販売条件で巻き返しを図る。
中国	沿岸先進地域で一時停滞したものの、販売はほぼ計画通りに進捗。主力のピアノは販路開拓や商品ラインアップ充実で拡販を目指す。
AP地域	中東で景気後退の影響を受け販売減速したが、アジア、オセアニア、中南米の各地域で堅調を維持。ロシア、インドでは進捗にやや遅れが見られるが、各種販促投入や為替好転要素もありAP地域全体では概ね計画通りに推移。今後も国ごとにバラつきあるものの総じて堅調な推移を見込む。

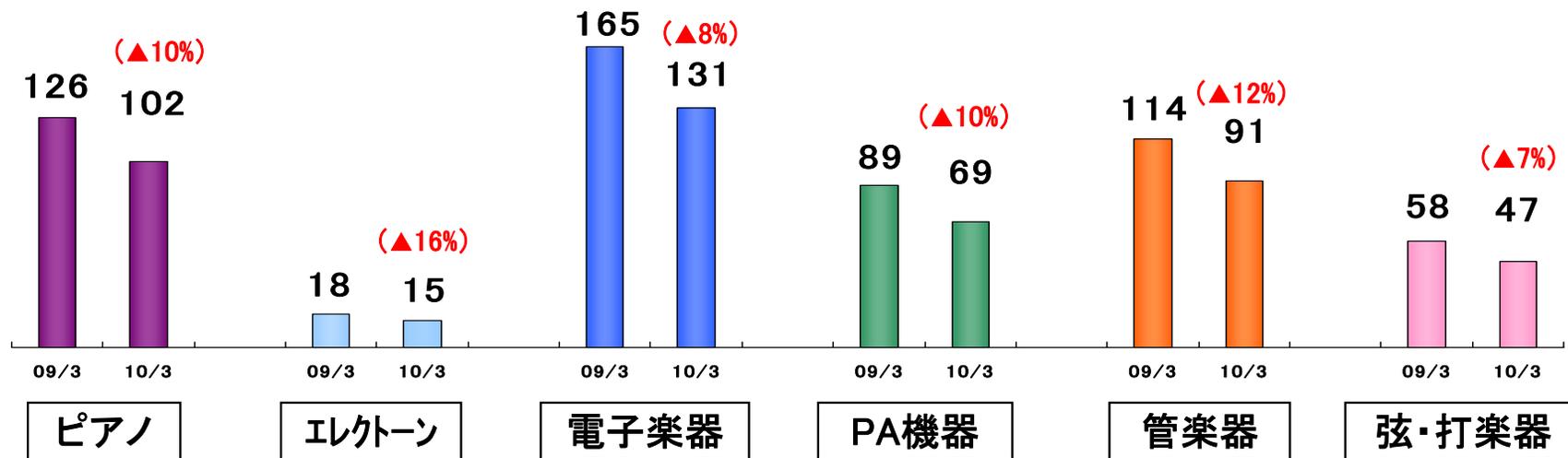
楽器事業(商品群別の販売状況)



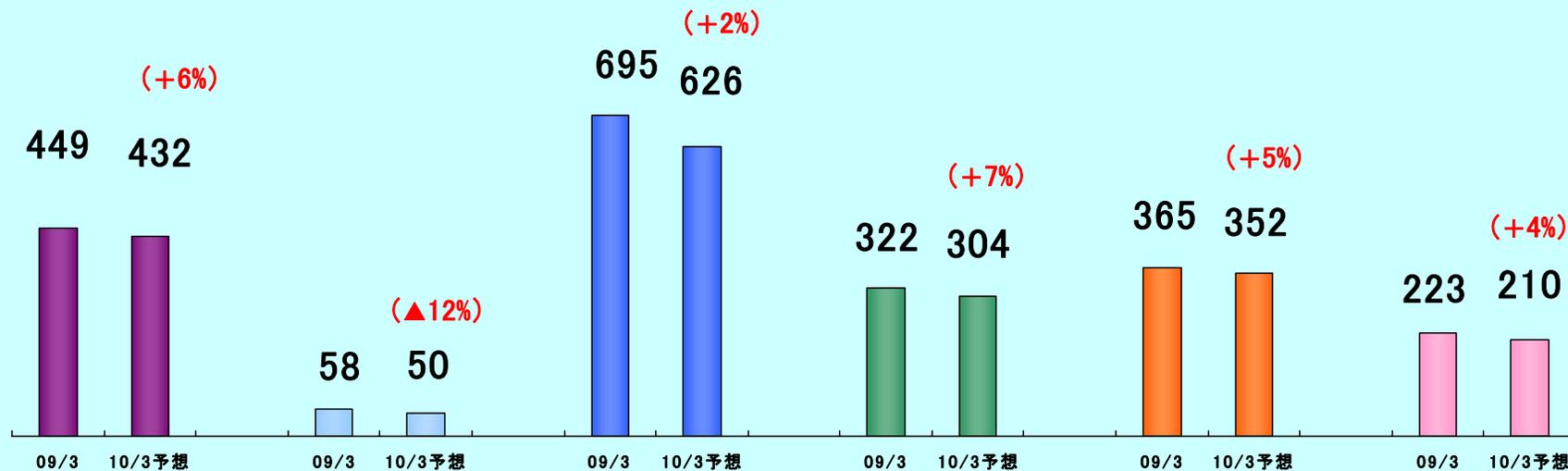
(億円)

1Q

* ()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



通期予想



楽器事業(商品群別の販売状況)



楽器商品群別状況

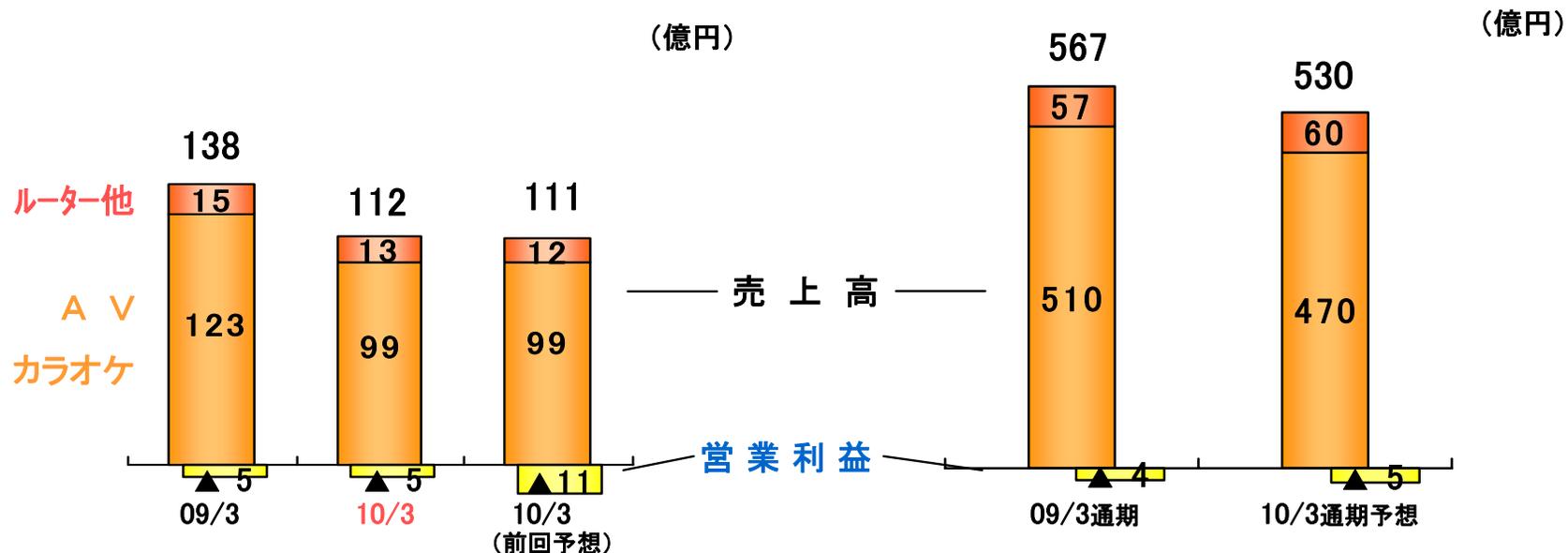
ピアノ	日本は値上げで一時的な需要増あるも漸減傾向変わらず、アジアも台湾、韓国苦戦し、前年を下回る。欧州では大幅な販売悪化。北米は販路の拡大が売りに寄与し、微減にとどまる。中国は依然成長を持続。年末商戦に向け、日本で新商品発売、中国で現地製廉価モデル投入する。
電子楽器	顧客の低価格志向と単価ダウンの急激な進展で、日欧の電子ピアノが苦戦。国内のエレクトーン低迷続く。ポータブルキーボードは欧州、AP地域の落込み大きい、北米・日本・中国で伸長。年末に向け、一部モデルの価格対応や新商品投入で通期キャッチアップを目指す。
管楽器	個人向け中高級品の落込みが前年に比べ米・日で顕著。普及価格帯も学校レンタル向けが漸減傾向で売り上げ減少。欧州は独英の販売堅調により落ち込みは僅少。アジア地域も全般に軟化。アーティストを前面に出した販促活動展開し、売り上げ増を目指す。
ギター・ドラム	アコースティックギターは注力しているエレクトリック・アコースティックギターが北米・アジア中心に依然堅調に推移しているが、エレキギター販売が低迷。アコースティックドラムは総需要減少の中、各地域とも苦戦。電子ドラムも北米を中心に需要が低迷し、売り上げ減少となる。引き続き、販路の拡大によりアコースティックギターの市場シェアアップと新技術を搭載したドラムの発売で落ち込みをカバーする。
PA機器	景気悪化により投資の先送り・買い控え続き、欧米日の設備市場が低迷、主力のデジタルミキサー伸び鈍化。楽器周辺音響機器は、小型定番ミキサーの復調もあり北米や中南米で堅調に推移。内臓ソフトのアップデートや販売条件の見直しで拡販を目指す。

1Qの状況

- ・対前年同期減収微増益。前回予想に対しては、損失幅縮小
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期7.2%（10億円）の減収
- ・オーディオは、フロントサラウンド商品を中心に、国内が堅調に推移するものの、北米低迷

通期予想と重点施策

- ・市場変化に合わせたAVビジネスの構築
 - 中高級AVレシーバー拡販
 - フロントサラウンド商品拡販
 - ラインアップ充実による2chHiFiビジネス強化
 - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品の開発と市場導入
 - 部品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価の低減
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大

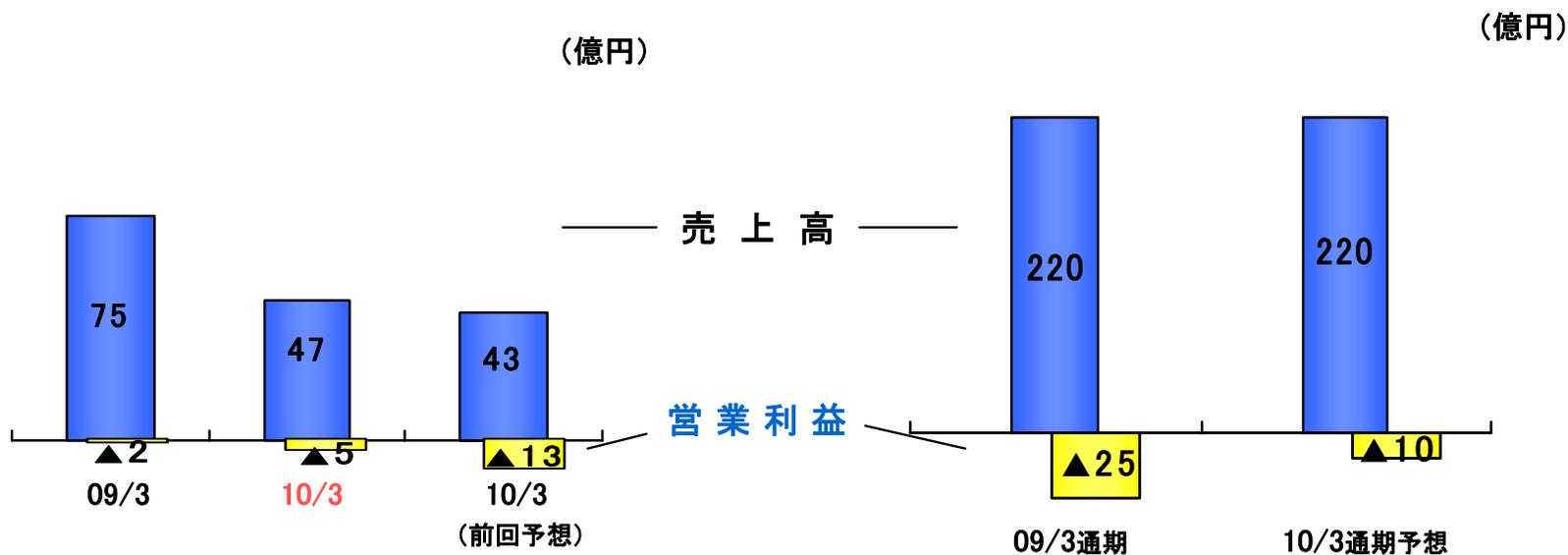


1Qの状況

- ・対前年同期減収。損益は前期実施の固定資産減損による減価償却費の減少により、小幅悪化にとどまる。対前回予想では増収増益
- ・売上高は携帯電話用音源LSIの減少継続。デジタルアンプは対前年同期売り上げ増加
- ・在庫はほぼ適正水準

通期予想と重点施策

- ・固定費削減による収益力強化
- ・デジタルアンプ、コーデック新商品投入による拡販。アミューズメント音源、画像LSIの維持拡大

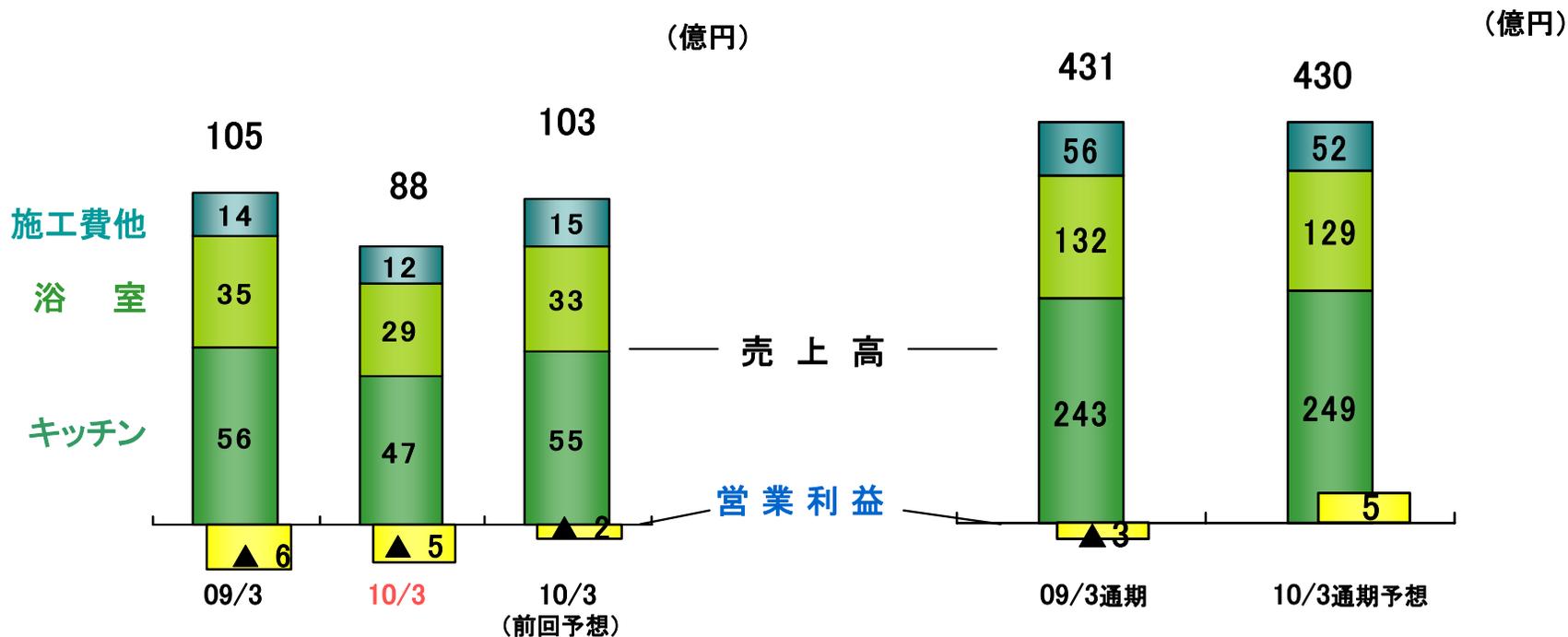


1Qの状況

- ・対前回予想減収減益。対前年同期では、経費削減効果もあり減収増益
- ・新築住宅着工数の前年割れが続く中、キッチン、浴室とも対前年同期、前回予想減収
- ・リフォームビジネス強化策の展開により、リフォーム比率は若干の上昇(前年同期25%→27%)

通期予想と重点施策

- ・リフォームビジネス強化(リフォームに強い販路の開拓、リフォーム用部材販売)により、通期売上高は前期並みが目標
- ・徹底的な経費削減、材料コストダウン、生産性向上による製造原価の低減

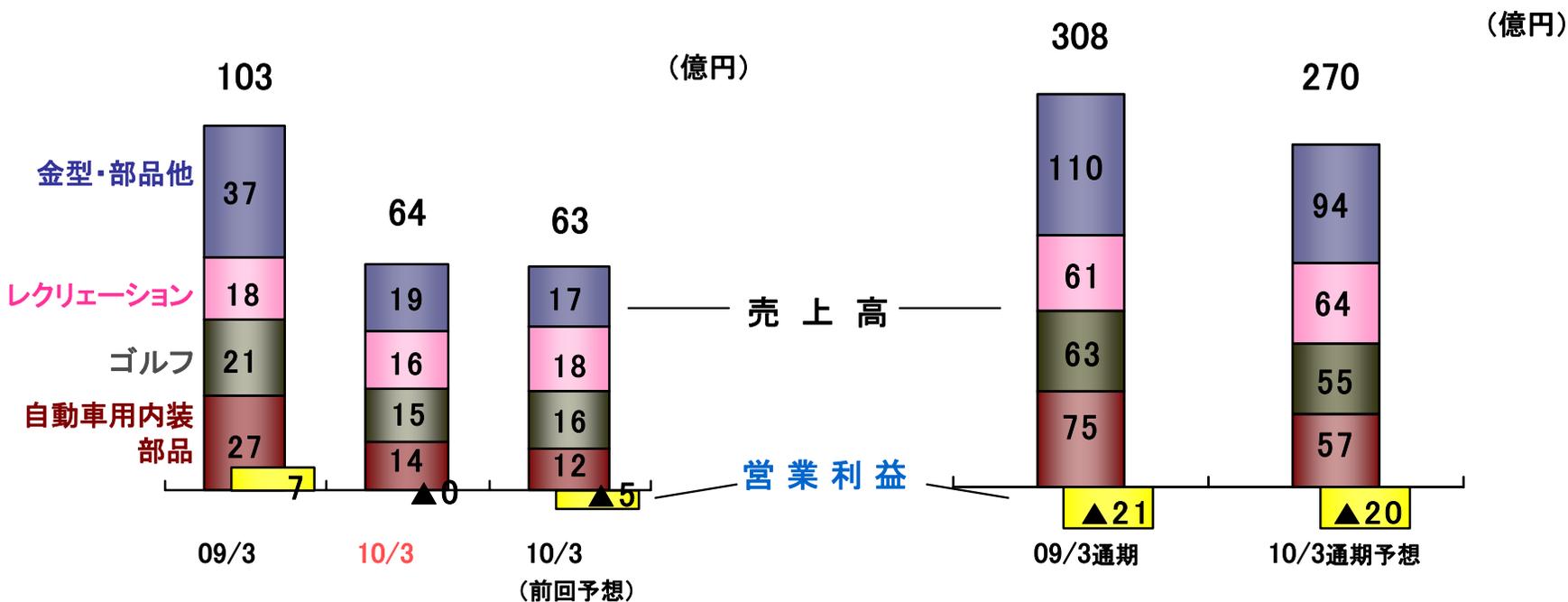


1Qの状況

- ・対前回予想増収。固定費削減効果もあり、損失幅大幅縮小。対前年同期では減収減益
- ・FAの受注底打ち。自動車用内装部品、マグネシウム部品とも完成品メーカーの在庫調整進展し、受注は回復傾向

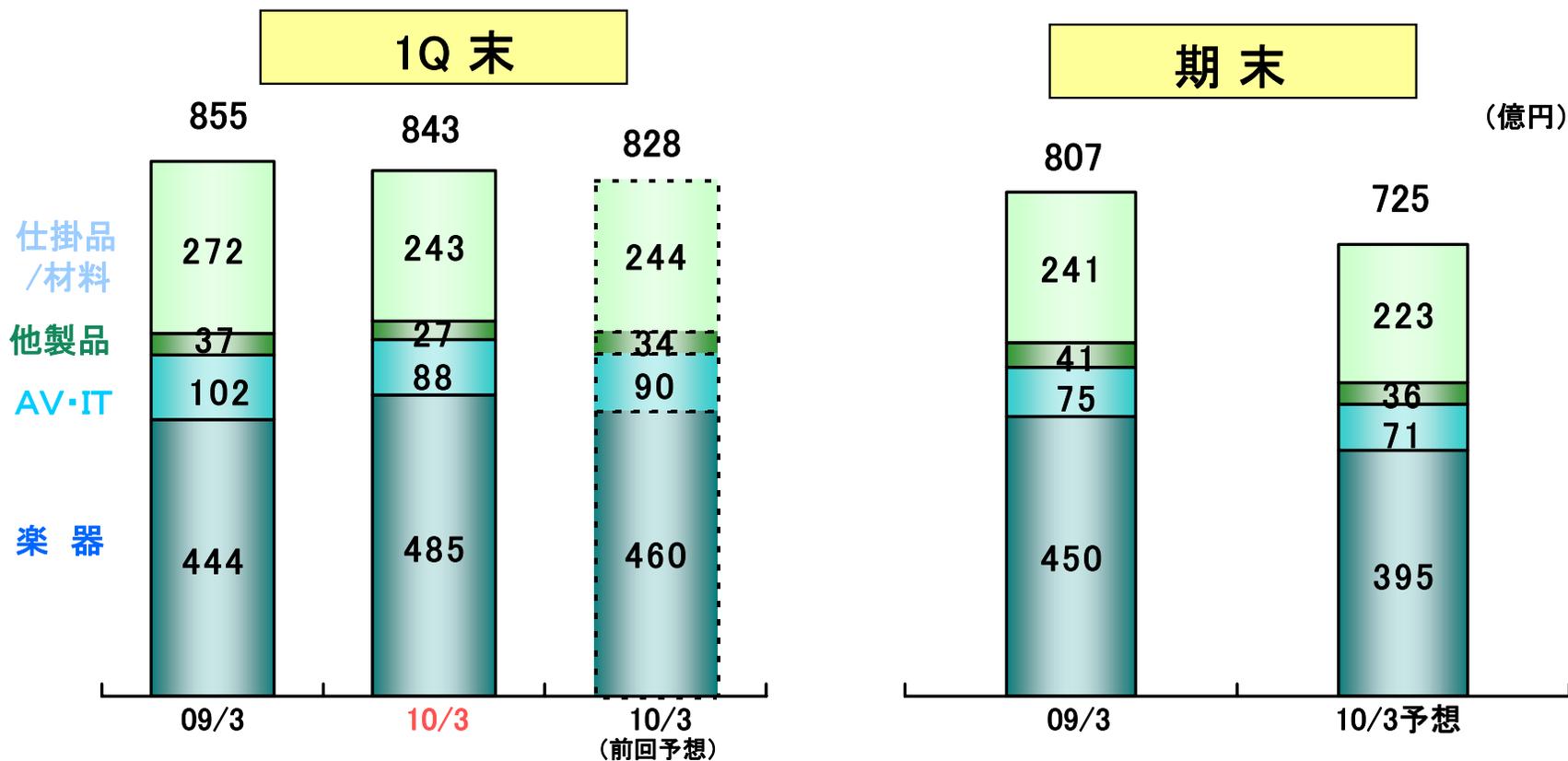
通期予想と重点施策

- ・自動車用内装部品は増産と経費削減による損益分岐点の引き下げ
- ・ゴルフは競争力ある新製品開発によるシェア拡大
- ・レクリエーション事業は施設の魅力を生かした商品企画の提案と固定費削減により、通期黒字化が目標
- ・マグネシウム部品のスムーズな生産終了



棚卸資産

- 1Q末総在庫は対前年同期 12億円の減少。
(新規連結要因及び為替影響を除けば実質64億円の増加)
- 前回予想に対しては、為替影響を除けば、実質17億円の減少



予想貸借対照表



(億円)

	1Q末			期末予想		
	08/6末	09/6末	増減	09/3末	10/3末	増減
現預金	665	365	▲300	414	388	▲26
売上債権	685	525	▲160	505	660	155
棚卸資産	855	843	▲12	807	725	▲82
他流動資産	287	243	▲44	295	262	▲33
固定資産	2,698	2,123	▲575	2,069	2,116	47
資産計	5,190	4,099	▲1,091	4,090	4,151	61
仕入債務	379	258	▲121	256	336	80
借入金	229	196	▲33	192	169	▲23
リゾート預託金	170	166	▲4	167	166	▲1
他負債	1,082	930	▲152	957	1,057	100
純資産計	3,330	2,549	▲781	2,518	2,423	▲95
負債純資産計	5,190	4,099	▲1,091	4,090	4,151	61

※現預金残高には譲渡性預金を含む

付属資料

設備投資額・減価償却費/研究開発費

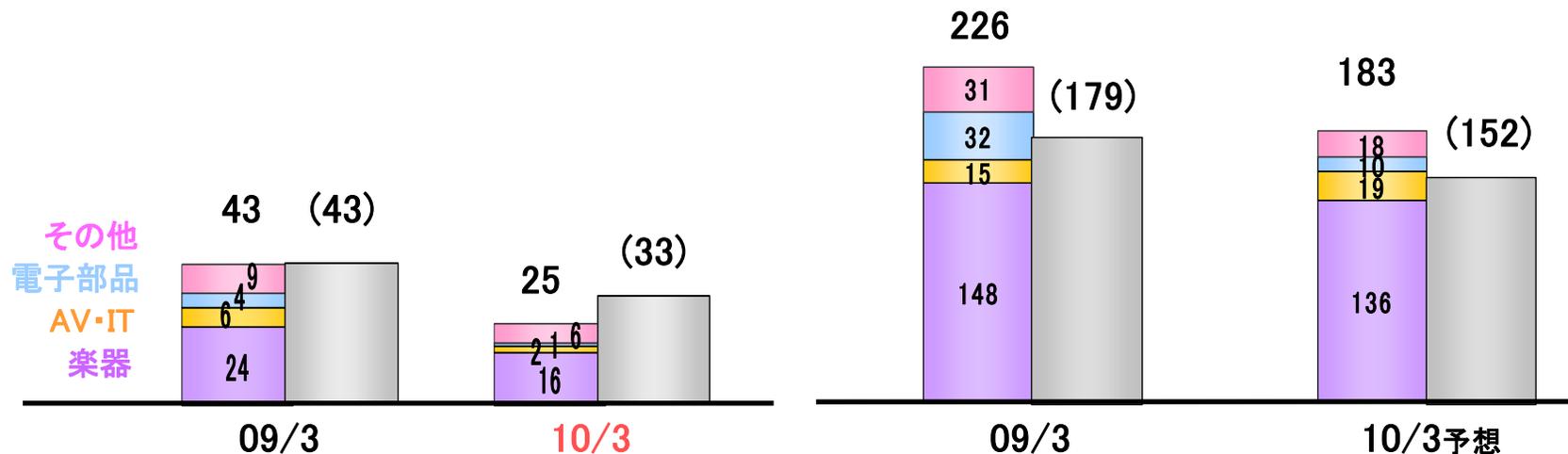


設備投資額(減価償却費)

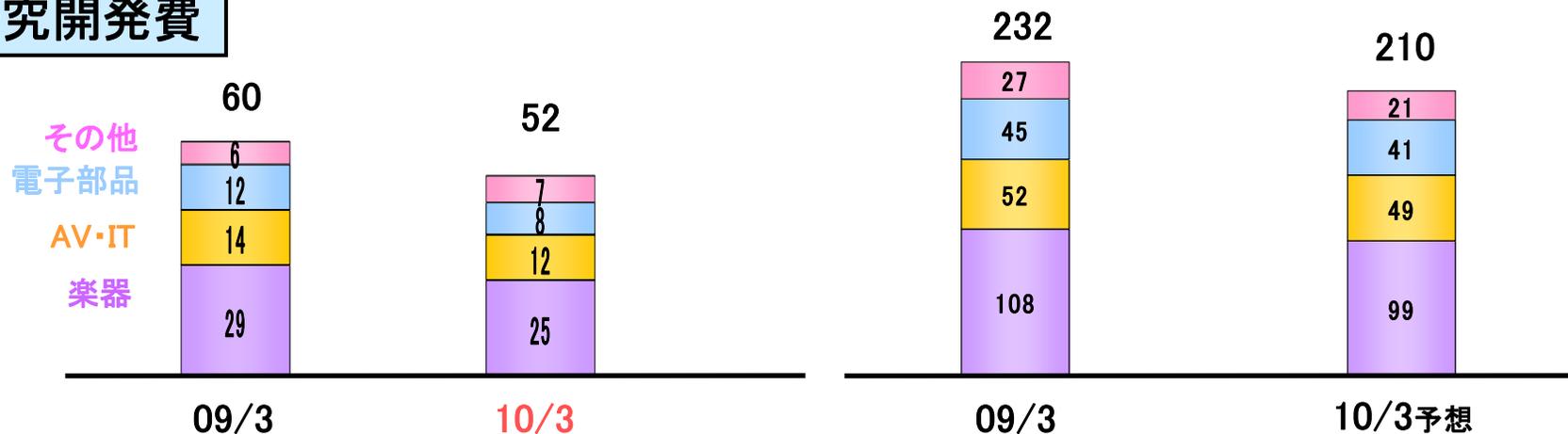
1Q

通期

(億円)



研究開発費



2010/3期 1Q営業外損益、特別損益



	09/3(1Q)実績	10/3(1Q)実績	10/3 (1Q)前回予想
			(億円)
営業外損益			
金融収支	7	2	1
その他	▲6	▲9	▲8
計	+ 1	▲7	▲7
特別損益			
固定資産処分損益	▲2	▲1	0
その他	0	0	▲2
計	▲2	▲1	▲2
法人税他			
法人税等	11	7	4
法人税等調整額	32	15	3
少数株主利益	1	1	0
計	44	23	7

2010/3期 通期営業外損益、特別損益



	09/3実績	10/3予想	(億円)
営業外損益			
金融収支	20	0	
その他	▲38	▲30	
計	▲18	▲30	
特別損益			
固定資産処分損益	▲7	▲5	
その他	▲235	▲5	
計	▲242	▲10	
法人税他			
法人税等	38	24	
法人税等調整額	49	▲4	
少数株主利益	▲3	0	
計	84	20	

・ヤマハ発動機配当金 11

・減損損失 ▲153
 ・構造改革費用 ▲49
 ・関係会社
 出資金評価損 ▲33

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。